

Japan Association of Synthetic Anthropology

# 総合人間学会

Newsletter 第44号 2022年10月10日発行

発行人：古沢広祐

事務局：〒112-86060 文京区白山5-28-20 東洋大学社会学部社会学科 松崎良美研究室

電話：03-3945-7847（直通）／ファックス：03-3945-7626

## 【目次】

I. 巻頭言	p.1
II. 第16回大会・実行委員長談話	p.2
III. 理事会・運営委員会報告	p.2
IV. 各委員会からのお知らせ	p.6
V. 役員、決算・予算資料、今年度会議予定など	p.8
VI. 事務局からのお知らせ	p.8

### （事務連絡）

### ＜＜ 学会費の納入お願い ＞＞

\* 総合人間学会・年会費、2022年度の振り込みがまだの方は、お振り込み下さい。学会誌（書籍版）送付時に振り込み用紙を同封、見当たらない方は郵便局の振込用紙にてお願いします。

（過去年度未納の会員の方は、早急にご対応のほど宜しくお願い申し上げます）

学会費：一般：7,000円・減額：4,000円（減額は申請者のみ：学生や非常勤職などへの配慮）

・加入者名：総合人間学会 口座記号番号：00180-2-579072

① 郵便局そなえつけの振替用紙、② ATM 送金、③ 電子振込み、に対応しています。

◆ ひろく学会員の門戸を開いておりますので、ご関心の方々にぜひ入会をお勧めください。

学会HP（入会案内）参照：[http://synthetic-anthropology.org/?page\\_id=57](http://synthetic-anthropology.org/?page_id=57)

## I. 巻頭言

昨年度に会長職を引き継ぎ、早くも1年が経過しました。Newsletter 41号でも述べました通り、学会設立時からの主要な方々が次々引退されてきた中で、学会を取り巻く情勢や学会運営自体、大きく変化してきております。とくに、コロナ禍で大会・総会が延期になったり（2020年6月）、以前からの事務局の仕事の負担過重などもあって、担当者の交代や引継ぎが不十分になるなど、課題山積にて推移してまいりました。

この間、学会役員の途中交代や役員補充があって、役員（理事、監事）の2年任期体制が不明確になりましたので（一時期は理事総数が39名）、第9期（2022～23年年度）として新役員体制（理事36名）を明確

化いたしました。また世代交代を意識して、できるだけ若い世代からの発言やアイデアなどが生きるような場づくりと運営に心がけたいと思います。学会の会則も、長らく古いものがホームページに掲載されていたり、最新の改訂版・会則の共有が遅れておりました。現状の運営体制と会則との間では、多少ともまだ齟齬がありますので、これから順次改訂していきたいと思います。

コロナ禍という想定外の事態、災害の多発化、さらにウクライナ危機が出現して、これが 21 世紀なのかと疑うほどの昨今です。時代状況は、日に日に混迷を深めているかにみえます。さらに、気候危機、格差・貧困化、様々な場面での社会的断絶の拡大など、現代社会には多くの難題が積みあがっています。このような諸矛盾の深まりに対して、問題への個別的対応では限界があることから、まさしく総合人間学会としての役割が期待される時代だと思えます。さまざまな分野の多様な方々からなる総合人間学会としての強みが、今こそ試される時代になったのではないのでしょうか。個別分野での取り組みとともに、総合的な視点から人間の本質に迫るチャレンジを、学会活動において期待しております。皆さまの積極的なご参加とご協力のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

総合人間学会会長 古沢広祐

## II. 第 16 回大会・実行委員長談話

大会が終わり、まもなく秋を迎える季節となりました。大会にご参加くださった皆さま、ありがとうございます。また大会に関わってくださった多くの皆さま、具体的には、シンポジストとしてご登壇下さった久木田水生先生、木村武史先生、中村俊先生、ワークショップでコメンテーターを務めて下さった亀山純生先生、熊坂元大先生、竹中信介先生、そして運営面で大会全体を下支え下さった、古沢広祐先生、鈴木伸国先生、大倉茂先生、河野貴美子先生に、ここで改めて感謝を申し上げたいと思います。

他方でこの度、シンポジウム実行委員を経験させていただく過程で、学会が抱えている課題についても感じたことがございました。それは、学会の運営体制として、企画や研究を中心的に牽引していく母体が不在であるように感じられることです。シンポジウムを継続的に企画していく方法としては、例えば小研究会を活発化させ、各々の小研究会で蓄積された成果を順番にシンポジウムにつなげていくという方法があるかと思えます。とはいえ現状では、小研究会の活動も停滞しており、現実的な方法とは言えません。

ここで私から提案させていただきたいのは、運営員委員会や理事会はあくまで審議の場と位置づけ、その前段階として、企画や原案を練る少人数の組織を、会長を中心に新しく組織していただくという方法です。これまで運営委員会でさまざまなことが前進してきたのは、この前段階となる調整をどなたかが担ってくださっていたためと推察します。新しい体制で学会活動を継続的に進めるためには、ぜひともこうした新しい組織の立ち上げをご検討いただき、広く若手の関係者にも声をかけていただけたらと思います。

総合人間学会が掲げる、文理を超えた人間に関する総合知／全体知を探求するという試みそのものは、時代の要請にきわめて符合するものだと感じております。本学会が新しい体制として軌道に乗り、発展していくことを願っています。

上柿崇英

## III. 総会・理事会・運営委員会報告

### 2021 年度総会報告

日時 2022年6月25日 11時～11時45分 場所 Zoom 出席者 33名  
始めに北見秀司会員が議長に選任された。続いて古沢広祐会長から挨拶があった（冒頭、巻頭言参照）。

### 審議・報告事項など

1. 2021年度決算について  
事務局次長から説明があり、資料のとおり承認された。
2. 2022年度予算について  
事務局次長から説明があり、質疑ののち、資料のとおり承認された。  
「コロナ禍、会員連絡の電子化への移行などで、会員にとって会費請求次期が不分明になっており、確認を要する」「会費請求において色付き用紙を用いるなど注目性を高める努力が必要である」などの指摘があった。
3. 役員人事について  
事務局次長から説明があり、資料のとおり承認された。  
事務局が事務局次長勤務校におかれることが報告された。
4. 各委員会活動報告（報告事項）および各委員会活動計画（審議事項）について  
以下各委員会から前年度活動報告、今年度活動計画の説明があり、後者について承認があった。  
1) 事務局 2) 編集委員会 3) 出版企画委員会 4) 研究・談話委員会 5) KW集発刊委員会  
6) 広報委員会 7) 若手委員会 <詳細は、IV. 各委員会からのお知らせ、参照>
5. その他  
パワハラへの訴えに関する臨時聞き取り委員会（長谷場委員長）から調査結果の報告があった。その内容は「本件はパワーハラスメントには当たらないが、学会活動の事前準備、理事の役割分担などでコミュニケーション不全が起こったという状況がある。対策として、理事会・運営委員会活動の在り方、学会諸規定の見直し、制度の整備等が必要である。」というものであった。それらを踏まえて、黒須副会長を委員長とする「学会運営・会則等検討委員会」（仮）、河上副会長を委員長とする「ハラスメント規約委員会」（仮）が設置されることとなった。

### 2022年度第1回理事会・運営委員会報告

日時 2022年7月31日 13時15分～15時45分

場所 Zoom

出席 26名（50音順・敬称略）

岩田好宏 上柿崇英 太田明 小原由美子 オプヒュルス鹿島ライノルト 蔭木達也  
片山善博 河上睦子 河野貴美子 菊池理夫 北見秀司 鬼頭孝佳 木村武史 久保田貢  
黒須三恵 近藤弘美 斉藤利彦 佐貫浩 鈴木伸国 長谷川万希子 長谷場健 古沢広祐  
本田俊貴 松崎良美 柳沢遊 楊逸帆

### 報告事項など

新理事の参加もあり最初に簡単な自己紹介を行った。

#### 1. 事務局（鈴木事務局長）から

##### 1) 理事会・運営委員会の年間予定の確認

昨年度、委員会回数が少なかったため大会企画・新理事選任などのため臨時委員会を開催する必要があったとの指摘があり、今年度、試行的に6回の委員会が開催される旨、確認された。

##### 2) 事務局体制の報告

事務局内での以下分担が確認された。

松崎次長	次長用務（運営委員会、contact@への対応）の他に、現金、予算・決算。
近藤委員	会費（＝振替口座）。
蔭木委員	名簿およびメーリングリスト（会員システム管理＋ML 環境整備＋HP 管理等は様子を見て太田先生から引継ぎ）。
熊坂委員	NL 関係（ワード作業＋原稿集め）。
鈴木事務局長	それ以外の諸多用務。

### 3) 会費納入状況と予算執行

下表のとおり、会費収入が減少傾向にあること、今年度収支の支出超過が濃厚である旨報告された。

2017	1,357,000
2018	1,244,000
2019	-
2020	1,106,000
2021	842,000
2022	615,000（7月1日現在）

春季の納入状況を見て、秋季に督促をする必要がある（太田）などの意見があった。古沢会長指導のもと会費の納入促進をはかる旨、報告があった。

## 2. 各委員会からの報告、諸企画など

### 1) 編集委員会（河上委員長）

Online ジャーナルへの投稿、新投稿既定（「投稿論文執筆要綱」）への準拠が呼びかけられた。J-Stage へのデータアップロードについては自薦があり、まず楊理事が取り組むこととなった。

### 2) 出版企画委員会（中村委員長）

事前のメール報告で17号の出版予定（2023年5月、600部）、第一回企画委員会の予定（8月12日午後1時半～2時半、オンライン）などの報告があった。また「冊子体の発行を維持できなくなりつつ」あり、また「情報発信と取得がインターネットに移行している」状況が確認され、「発信、議論の場の構築に関しユニークな対策」の可能性が提案された。

### 3) KW 集発刊委員会（長谷場）

KW 公募状況（12件。内3件については委員会応答済）の報告があった。

### 4) 研究談話委員会

「自己家畜化論」研究会・研究談話委員会の共催の「小原秀雄先生追悼企画—自己家畜化論の継承・発展のために」（8月28日）を学会行事に格上げし、諸学会などに呼び掛ける可能性が諮問されたが、木村委員長よりこれまで独立した企画準備がなされてきた経緯が説明され、これまでの企画通り進められることとなった。

## < 審議・協議事項など >

### 1. 事務局から

#### 1) 入退会

3名の退会が承認された。

定年退職に伴う会費減免の申請が一件あったが「学生会員・OD 会員・非常勤職にある会員・その他経済的事情のある会員」（会則、付則6）がもつぱら大学院生などを念頭においたものであるとの指摘があり、該当しないことが確認された。

## 2) 理事会の参加に関して、委任状などの確認

理事会の欠席者に委任状提出義務が定められていないことについて、本学会の理事会が合意を確認する場であって、規約には議決の規定がない旨が確認された。議決を要する案件があれば、委任状提出を依頼する、あるいは規約改定時にその旨、定める必要があることが確認された。

## 3) 学会運営、会則の見直し・改訂について

これまでの会則改定および、学会事務の効率化や意志疎通の齟齬（ハラスメント関連含む）のない運営に向けての組織改革として、黒須副会長から学会運営・会則等検討委員会を設け、推進してゆく方針であるとの報告があった。

またハラスメント防止およびその関連規約の整備などについては、河上副会長が中心となり進めてゆく方針であるとの報告があった。

## 2. 提議（楊委員から）

1) 年度大会や談話研究会へ海外の発表者・コメンテーターを誘う可能性について、昨年度古沢会長が参加した国際行事（台湾の関係者との意見交換会）があったことが報告され、また今後国際的な取り組みの機会があれば、随時可能性を探ることで了解があった。

2) 「学会設立趣旨」を英語以外の外国語へ翻訳する可能性について、提案があった。それに付随して、学会紹介パンフレットの部分的再編集とHPへの掲載を進めることとなった。

## 3. 2023年度大会企画について

開催方式や企画テーマなどが話し合われた。

次年度大会企画については、別紙資料（「大会企画アンケート集計」を参照しつつ、多少時間延長して意見交換がなされた。アンケート結果では、同時進行の並行行事を両方視聴する方策の希望、シンポ企画の公募、シンポジストの多様性（分野、ジェンダー、世代）配慮など、開催方式へ提案があった。具体的な企画のテーマについて、以下のキーワードや案が挙げられた。

- ・ AI と人間の意識・知能。
- ・ 進化の問題、動物とヒト、自己家畜化論、遺伝子-文化共進化など。
- ・ 子供と学習、人間学の基本になる主題。
- ・ 力の均衡の崩れ、軍事衝突、宗教紛争、ヘイトスピーチ、人々の視野狭窄化、分断の進行と裏腹の民主主義への絶望、反知性主義などの新しい現象への解明と学問的射程に設定できないか。
- ・ ポストヒューマンも射程に入れて、社会分断をテーマ設定できないか。思想・宗教・政治・経済・世代・技術資源など多領域で生じている社会分断状況、敵対・排除に対する総合的な視点を掘り下げる。

議論としては、他学会と異なる本学会の独自性の重視、現実的問題設定と大テーマ（人間全体像）が交差するような工夫、学会の設立趣旨を踏まえたテーマ、若手など新たな世代の視点の重要性などが言及された。今後の具体化に向けた議論のために、会長を中心に企画テーマに関する懇談会を設定し、関心を持つ若手層や経験層に呼びかけ、次回の運営委員会で議論するたたき台的なものを用意してほしいとの提案があり、準備することになった。

## IV. 各委員会からのお知らせ

各委員会からの活動報告、次年度方針など。（2022年6月25日総会資料等をふまえて編集）

### 1) 編集委員会（編集委員会 委員長 河上睦子）

## \*2021年度、編集委員会の報告

- ・2021年編集委員会構成員：計12名

河上睦子(委員長)、北見秀司(副委員長)、河野貴美子(副委員長)、西郷甲矢人(副委員長)、オブヒュルス鹿島ライノルト、片山善博、斎藤利彦、長谷川万希子、菅原由香、鈴木朋子(編集事務幹事)、下地秀樹(アドバイザー)、宮坂瑠子(アドバイザー)

## ・2021年度の活動報告

編集委員会(オンライン会議)の開催

第1回：2021年7月18日、第2回(臨時)：2021年10月10日、第3回：2021年12月19日、第4回：2022年2月6日、第5回：2022年4月16日、第6回：2022年5月8日

(委員会活動内容)

- ・2021年度投稿規定の一部改訂を行い、ホームページに掲載した。
- ・オンラインジャーナル版『総合人間学』第16巻の掲載論文等の査読・編集・発行作業を行い、2022年5月末日に公開した。内容は以下の通り。〈投稿論文〉5、〈研究ノート〉1、〈エッセイ〉1、〈若手シンポジウム報告〉3、〈報告：委員会〉3、書籍紹介等。なお投稿論文のエントリー数：11、投稿数：8、掲載数：5、報告：1であった。
- ・2022年度からのオンラインジャーナル版『総合人間学』の掲載論文等について、投稿規定の改定案を作成した。
- ・投稿論文の査読・判定について、査読判定が分かれた場合の対応、査読後の修正論文への再査等の取り扱いなどについては、来年度からの「内規」を作成した。
- ・オンラインジャーナル版をJ-Stageに登録するための必要書類を提出した。それに伴い雑誌名を『総合人間学研究』から『総合人間学』とし、〇巻を〇巻に変更した。詳細はNL43号参照。なおその後J-Stageから、こちらの申し込み内容を審査した結果、掲載誌として採択となったと連絡があり、6月9日に利用申請書を(会長から)提出した。

## \*2022年度、活動計画

- ・「総合人間学会第16回研究大会」2022年6月25・26日(オンライン開催)を踏まえて、『総合人間学』第17巻を編集委員会のもとで刊行する予定である。
- ・2021年度オンラインジャーナル版と書籍版との合同合評会を開催したい。
- ・2022年度は新編集委員を迎えて、仕事の分担を明確にし、委員会活動の刷新をはかりたい。

## 2) 出版企画委員会(出版企画委員会 委員長 中村俊)

8月7日(土)午後、「総合人間学15：書籍版刊行の紹介と学会の今後への意見交換」の会をオンラインにて開催した。当日、運営委員会・理事会の後に、書籍版の合評会としてではなく、内容紹介と意見交換を中心におこなった。諸事情のため発刊が遅れて、書籍版刊行のお披露目(着目ポイント、読む際の手引き等)という位置づけで、今後の学会企画のための意見交換として幅広い議論の場となった。(出版企画委員会・研究談話委員会による共催)

- ・学会誌16号の出版：タイトル：人新世とAIの時代における人間と社会を問う  
2021年に行われた大会シンポジウムのパネリストの論考を中心に、そこで明らかにされた課題に環境教育、生命倫理(生殖補助医療技術)、平和教育などからアプローチしている方々の論考と、2022年6月に開催予定のシンポジウムのテーマを先取的に提起する上柿崇英氏の論考を加え8編の構成となった。5月19日には本の泉社による責任校了となり、大会前5月下旬の出版、出版社から会員への発送を予定している。

## \*活動計画

- ・学会誌17号の出版  
2022年6月25日開催予定のシンポジウム「ポストヒューマン時代が問う人間存在の揺らぎ～人間能力拡張(AI・アバター等)がもたらす将来世界とは?～」の報告を中心に、大会実行委員長上柿崇英氏を出版企画委員に加え、そのテーマをさらに深化させる企画を組む。研究談話会と連携して、若手、女性を含むあらたな執筆者を発掘することも課題としたい。

### 3) 研究・談話委員会 (研究談話委員会 委員長 木村武史)

#### \*研究談話委員会、2021 年度報告

- ・第1回研究会、7月25日(日)午後、オンラインにて開催した。

書籍『21世紀の変革思想へ向けて—環境・農・デジタルの視点から』(尾関周二著、本の泉社)を題材にしての研究会、お二人の報告をもとに質疑応答と全体討論をおこなった。

(報告1)「21世紀の変革思想へ向けて—環境・農・デジタルの視点から」について

報告者：大倉茂(東京農工大学)

(報告2) 論点リブライ及び問題意識の説明と展開

報告者：尾関周二(東京農工大学名誉教授)

- ・8月7日(土)午後、「総合人間学15：書籍版刊行の紹介と学会の今後への意見交換」の会をオンラインにて開催した(当初の合評会予定を意見交換会に変更)。

当日、運営委員会・理事会の後に、書籍版の合評会としてではなく、内容紹介と意見交換を中心におこなった。諸事情のため発刊が遅れて、書籍版刊行のお披露目(着目ポイント、読む際の手引き等)という位置づけで、今後の学会企画のための意見交換として幅広い議論の場となった。(出版企画委員会・研究談話委員会による共催)

- ・第1回談話会、10月30日(土)15時45分～17時30分、オンライン開催にて開催した。  
「子ども・若者の自分の生き方を追求する学習を学校において12年間かけて助成するための計画(学習助成12年計画)一般篇試案」

報告者：岩田好宏、

現在の日本の学校の過程を、学習する子どもの立場に立ち、学習を子ども・若者の自分の生き方の追求につなげる12年間をとおして助成する過程へと変える試論が示された。論議の中で出された意見などを整理して、今後の課題が挙げられた。

- ・第2回研究会、12月24日(金)15時00分～17時30分、オンラインにて開催した。  
報告：ポストヒューマン時代における諸問題～「人間」の終焉と「世界観＝人間観」への問い～  
報告者：上柿崇英(大阪府立大学、現・大阪公立大学)  
コメント：木村武史(筑波大学) 中村 俊(東京農工大学)  
司会進行：古沢広祐(國學院大学)  
2022年大会シンポ企画への準備、論点の共有とともに、この問題に対する総合人間学として見解や考え方を議論し、深めていくことを目指して企画された。

- ・第3回研究会、2022年4月9日(土)15時40分～17時40分、オンラインにて開催した。  
報告：「戦争と平和の問題」を総合人間学的に考える—9条地球憲章の会『地球平和憲章日本発モデル案』ブックレットを中心に—  
報告者：堀尾輝久(東京大学名誉教授、元学会会長)

#### \*2022年度、研究談話委員会

2022年度の研究談話委員会は、委員、理事、会員から広く企画案を募りながら進めて行く。一件、特別企画が計画されている。2022年8月28日(日)、小原秀雄先生追悼企画として「自己家畜化論」研究会・研究談話会の共催で開催された。

報告者：①小原由美子：小原秀雄の思い出：東アフリカの国立公園と野生動物、②岩田好宏：人間における「主体-環境」関係について、③長谷場健：小原自己家畜化論の特徴と総合人間学、④上柿崇英：「自己家畜化論」が照射する総合人間学的フレームワーク、⑤穴見慎一氏：総合人間学における「人間(ヒ

ト)の視点の可能性 ◇報告後、質疑・座談会

#### 4) KW集発刊委員会 (KW集発刊委員会 委員長 長谷場健)

##### \*2021年度KW(キーワード)発刊委員会報告

KW発刊委員会は「総合人間学KW集」発刊に向け、2021年は7月10日、8月8日、9月5日、10月6日、11月14日、12月1日、12月12日、2022年は1月22日、2月12日、3月18日、5月22日、6月5日の計12回の会議をオンラインで開催した。その内11月14日と12月12日は一般会員を含む公開研究会だった。

##### ・活動内容

- ① 昨年度から手掛けてきた「総合人間学KW集・記述モデル」を完成させ、2021年8月3日に学会ホームページ(HP)のKW集欄に掲載した。
- ② 会員に向けて、11月14日(日)に「KW集・記述モデル」の報告・評価会をオンライン(13時00分~15時30分)で開催した。そこで、KW委員会「kwリスト」案の紹介も行った。
- ③ 2022年2月22日に会員に向けてKW執筆公募(第1期)を行った。その際、KW執筆公募案内文、KW執筆規定、総合人間学KWリスト(案)をHPおよびニュースレターに掲載した。現在6件の応募原稿(共同性、コミュニティ、生命、スピリチュアリティ、自然保護、人間世界)があり審査中である。今後も、追加原稿(労働、コミュニケーション、言語、遊び、人間の尊厳、政治人、気、ハラスメント)の提出が予定されている。
- ④ 1つのKWに複数の執筆者が参加する「kw集・記述モデル」の記述法に従って、KW「対話」の執筆を5名の関係者に依頼した。提出された各原稿について12月12日(日)にオンラインで研究会(13時00分~15時30分)を開催し討論を行った。現在、KW「対話」の対話的記述を公表中。

##### \*2022年度の方針

2022年度は前年度同様、KW集の記述法を公募または委員会依頼の単独執筆と複数者による(対話的、批判的、総合的)執筆の2本立てとし、KW公募企画をより充実したものにしていく。また、必要に応じて研究会を開き、KW集の作成を進める予定である。

#### 5) 広報委員会 (広報委員会 委員長 太田 明)

コロナでパンフレットなどの活動はできていない。会員は月に一度はHPを参照するように告知にてお願いしたい。委員会の活動内容の見直しと今後の体制について検討中。

#### 6) 若手委員会 (2021年度若手委員会 委員長 大倉 茂)

2022年開催の第16回研究大会における若手ワークショップの開催、各種勉強会の開催。

##### ・今後の活動(2022年度若手委員会 委員長 本多俊貴)

次年度研究大会での若手ワークショップに向けた勉強会などの継続開催。コロナ禍収束後の若手委員会、各種勉強会の開催を予定。

## V. 役員、決算・予算資料、今年度会議予定など

### (第9期役員)

会長 古沢広祐 副会長 黒須三恵 河上睦子 長谷場健

### 理事・運営委員 (9名)

穴見慎一 太田 明 小原由美子 河野貴美子 木村武史 鈴木伸国 中村 俊 本多俊貴 松崎良美

## 理事 (23名)

阿部信行 岩田好宏 上柿崇英 オブヒュルス鹿島ライノルト 蔭木達也 片山善博 北見秀司 鬼頭孝佳 菊池理夫 木下康光 久保田 貢 熊坂元大 近藤弘美 斉藤利彦 佐貫 浩 関 陽子 田中昌弥 戸田 清 長谷川万希子 藤井博之 前田幸男 宮盛邦友 楊 逸帆

## 編集委員会

委員長 河上睦子 副委員長 河野貴美子  
編集委員 北見秀司 斉藤利彦 佐貫浩 戸田 清 長谷川万希子 藤井博之 宮盛邦友  
編集事務幹事 鈴木朋子 アドバイザー (編集) 太田 明

## 出版企画委員会

委員長 中村 俊  
委員 上柿崇英 大倉茂 河上睦子

## 研究・談話委員会

委員長 木村武史 副委員長 小原由美子  
委員 上柿崇英 菊池理夫 木下康光 楊 逸帆  
アドバイザー 古沢広祐

## KW (キワード) 集発刊委員会

委員長 長谷場健 副委員長 穴見慎一  
委員 岩田好宏 太田 明 小原由美子 河上睦子 古沢広祐

## 広報委員会

委員長 太田 明  
委員 調整中

## 若手委員会

若手委員会委員長 本多俊貴

監事 岩瀧敏昭 柳沢遊

## 事務局

事務局長 鈴木伸国 事務局次長 松崎良美  
(事務局協力理事) 蔭木達也 熊坂元大 近藤弘美  
幹事 調整中  
アドバイザー 黒須三恵

## 顧問

池内 了 江原昭善 尾関周二 齊藤寿一 野家啓一 堀尾輝久 三浦永光 水田 洋 宮本憲一

(承認) 2022年総会(2022.06.25)にて承認 (任期) 2022年総会翌日(2022.06.26)～2024年総会

資料1：(2021年度・決算)

2021年度決算(報告)期間 2021年4月1日～2022年3月31日

収入の部	2021年度決算	予算
年会費	842,000	1,256,000
今年度・一般会員(満額会費対象者)	621,000	973,000
今年度・一般会員(減額会費適用者)	60,000	108,000
他年度年会費	161,000	175,000
寄付金・特別講演会収集金(大会除く)	30,000	32,000
	0	8,000
大会開催時におけるその他の収入	0	
書籍売上	1,280	88,000
利息	9	0
繰越金	335,311	270,910
収入合計	1,208,600	1,654,910
支出の部	2021年度決算	予算
大会運営費	163,500	300,000
年会費等振込手数料・引出手数料 他	3,740	2,000
理事会・運営委員会活動費	0	10,000
会議費(茶代等)	0	8,000
通信費(談話会用ハガキなど)	0	2,000
研究・談話委員会活動費	0	30,000
研究会・談話会開催費(講師謝金など)	0	20,000
郵送費(談話会案内はがきなど)	0	2,000
その他(会場代・文具代など)	0	8,000
若手委員会活動費	0	30,000
交通費	0	25,000
その他(会場代など)	0	5,000
広報委員会活動費	0	10,000
チラシ発注費	0	5,000
その他	0	5,000
事務局活動費	197,929	470,000
事務用品・消耗品費	1,023	5,000
郵送費・配送代	114,686	75,000
印刷費(大会予稿集など)	0	40,000
その他(封筒印刷・探替伝票印刷・コピー・FAX等)	0	5,000
交通費	0	30,000
事務局幹事報酬	60,000	290,000
会員発送作業アルバイト代	20,000	20,000
その他(会議室代・アルバイト代)	2,220	5,000
編集委員会活動費	127,934	40,000
オンラインジャーナル維持管理費	7,124	7,000
郵送費・コピー代	810	5,000
編集幹事報酬	120,000	20,000
学会誌発送作業アルバイト代	0	8,000
学会誌支払(出版費用、送料)	490,000	480,000
会員管理システム導入費	0	110,000
会員管理システム維持費	144,823	90,000
若手奨励賞費 <該当者なしの場合は積立金へ追加>	30,000	30,000
学術誌積立金	50,000	50,000
予備費	0	2,910
支出合計	1,207,926	1,654,910

(次年度への繰越額) 収入合計 - 支出合計 = 674 円

## (資料2、2022年度予算)

2022年度予算(案) 期間 2022年4月1日～2023年3月31日

収入の部	2021年度決算	予算
年会費	842,000	1,681,000
今年度・一般会員(満額会費対象者)	621,000	1,078,000
今年度・一般会員(減額会費適用者)	60,000	120,000
他年度年会費	161,000	483,000
寄付金・特別講演会収集金(大会除く)	30,000	10,000
書籍売上	1,280	5,000
利息	9	5
繰越金	335,311	674
収入合計	1,208,600	1,696,679
支出の部		予算
大会運営費	163,500	180,000
年会費等振込手数料・引出手数料 他	3,740	5,000
理事会・運営委員会活動費	0	3,000
会議代(湯茶代など)	0	0
その他(会場代・文具代など)	0	3,000
研究・談話委員会活動費	0	28,000
研究会・談話会開催費(講師謝金など)	0	20,000
郵送費(談話会案内はがきなど)	0	3,000
その他(会場代・文具代など)	0	5,000
若手委員会活動費	0	5,000
交通費	0	5,000
その他(会場代など)	0	0
広報委員会活動費	0	0
チラシ発注費	0	0
その他	0	0
事務局活動費	197,929	245,000
事務用品・消耗品費	1,023	5,000
郵送費・配送代	114,686	12,000
印刷費(NL・大会予稿集など)	0	10,000
その他(封筒印刷・振替伝票印刷・コピー・FAX等)	0	3,000
交通費	0	10,000
事務局幹事報酬	60,000	180,000
会員発送作業アルバイト代	20,000	20,000
その他(会議室代など)	2,220	5,000
編集委員会活動費	127,934	231,000
オンラインジャーナル維持管理費	7,124	8,000
郵送費・コピー代	810	3,000
編集幹事報酬	120,000	120,000
J-STAGE登録・更新手続き等アルバイト代	0	100,000
学会誌支払(出版費用、送料)	490,000	560,000
ZOOM有料ライセンス	0	24,000
会員管理システム維持費	144,823	150,000
若手奨励賞副賞費	30,000	30,000
学術誌積立金	50,000	50,000
予備費	0	185,679
支出合計	1,207,926	1,696,679

(資料3、学会資産)

2021年度末 学会資産		
	銀行(所在地)	金額
預貯金等	郵ちよ振替口座 (世田谷上馬支店)	1,703,665
	郵ちよ総合口座 (世田谷上馬支店)	322,759
	払出現金	14,887
	小計	2,041,311

  

流動資産	合計	1,610,271
積立金	◎学会基金	181,040
	◎学術誌積立金	250,000
	小計	431,040
学会資産	計	2,041,311

(2022年度、会議予定)

- 第1回 2022年7月31日(土) 13:15～15:45 理事会・運営委員会  
第2回 2022年9月18日(土) 13:15～15:45 運営委員会 (理事参加歓迎)  
第3回 2022年11月12日(土) 13:15～15:45 運営委員会 (理事参加歓迎)  
第4回 2023年2月11日(土・祝日) 13:15～15:45 理事会・運営委員会  
第5回 2023年4月22日(土) 13:15～15:45 運営委員会 (理事参加歓迎)  
第6回 2023年5月or6月 研究大会 第一日目 理事会・運営委員会

\*昨年度からオンライン会議による開催を踏まえて、従来の運営委員会を理事の自由参加として運営委員会・理事会として行ってきました(2021年度)。2022年度も基本的には同様なのですが、会議名を明示しました。運営委員会(理事のオブザーバー参加歓迎)ということで、会議開催は理事メール宛としてご案内いたします。

## VI. 事務局からのお知らせ

新型コロナウイルス感染症流行のために1年遅れとなりましたが、第21回総合人間学会関西談話会が以下の要領で開催されますので、ご案内申し上げます。

### 第21回総合人間学会関西談話会

日時： 2022年12月4日(日) 午後1時30分～4時30分  
会場： 京都市左京区役所総合庁舎会議室1B  
京都市営地下鉄「松ヶ崎」駅から徒歩8分  
(2番出口から南へ約400m、一つ目信号を東へ約200m)  
Tel: 075-702-1000  
[www.city.kyoto.lg.jp/sakyo](http://www.city.kyoto.lg.jp/sakyo)

発表1： 宗川吉汪「日本はなぜ新型コロナに敗れたか」  
発表2： 西郷甲矢人「〈数理人文学〉の確立に向けて」  
司会： 木下康光

なお、当日はマスクを着用するなど感染対策に十分ご留意の上、ご参加下さい。

(参加費無料、一般来聴歓迎)

## 学会誌販売のご案内

総合人間学会誌『総合人間学』の以下ラインナップを、学会の在庫分にかぎり

1冊 **特価1000円** (送料別) にて販売いたします！

購入ご希望の方は、注文冊数、送付先を学会事務局までメールまたは fax にてお送りください。

- |   |
|---|
| 第13号 『科学技術時代に総合知を考える——文系学問不要論に抗して』      |
| 第12号 『〈農〉の総合人間学』                        |
| 第11号 『人間にとって学び・教育とは何か——未曾有の教育危機に直面して』   |
| 第10号 『コミュニティと共生——もうひとつのグローバル化を拓く』       |
| 第9号 『〈居場所〉の喪失、これからの〈居場所〉——成長・競争社会とその先へ』 |
| 第8号 『人間関係の新しい紡ぎ方——3・11を受け止めて』           |
| 第7号 『3・11を総合人間学から考える』                   |

【本件連絡先：学会事務局】

・Eメールアドレス [contact@synthetic-anthropology.org](mailto:contact@synthetic-anthropology.org)

(以上)